

Rotary



宮崎南週報



ロータリークラブの活動を楽しもう！

宮崎南ロータリークラブ
会長 川村雅宣

第2059回例会

2020.12.7

会長／川村雅宣 幹事／島田博良
副会長／戸高勝利 会報／開地俊昭
例会場／宮崎観光ホテル
ソング／四つのテスト

会長挨拶

川村雅宣会長



ニコラ・テスラ

1800年代後半から1900年代前半にかけて活躍した発明家についてお話しします。彼は数多くの発明と技術革新を起こしており、現代文明にも多大な影響を与えています。特に有名なのが、「交流電流」の普及です。エジソン会社の発明した「直流電流」の電気システムでは安全性に問題がありましたが、ニコラ・テスラの交流電流により、その安全性と運用コストの安さを証明する事で、より安くより安全に電気の運用が可能になりました。

ラジオもニコラ・テスラが最初に発明したと言われています。電気で動く電動モーターも発明しています。これは工業機械や建築機械などで活用され、多くの電化製品の発達にも貢献しました。

遠隔操作技法（リモートコントロール）の発明ではテレビやエアコン等の家電製品から、船や飛行機などの運搬機械にまで巾広く活用されています。

医療分野ではレントゲンに使用されるX線も彼の基本原理によるものです。フリバーという空中輸送装置の特許も得ています。現在のオスプレイと思っていただければわかるでしょう。

発明王エジソンは知っていましたが、今回ニコラ・ステラというエジソンをも上回る人物がいた事に驚きました。彼がもっと潤沢な資産を持っていたならば、どれだけの発明をしていたか想像もつきません。

ロータリー情報

●社会奉仕活動に対する方針 (Policy Toward Community Service Activities)

社会奉仕に対するロータリーの方針は、1923年国際大会で採択され、以後の国際大会で改正された決議23-34にのべられている。

出席委員会報告

井上竜志委員長

●出席状況

本日状況		前々回状況	
会員数	(47) 49名	会員数	(46) 48名
本日欠席者数	18名	ホームクラブ出席者数	31名
本日出席者数	31名	メークアップ数	3名
出席率	65.96%	修正出席者数	34名
		修正出席率	73.91%

●前々回メークアップされた方／寺村明之会員、長澤好太郎会員、日高章智会員

ニコニコ BOX 1件 累計 27,000円

募金箱 累計 5,523円 76,236円

幹事報告

開地俊昭副幹事



- ・井福ガバナーエレクト事務所より次年度地区予定の連絡が届いております。
- ◇地区研修・協議会

2021年4月25日(日) 中山荘

- ◇地区大会 2021年11月5日～7日 MJ文化ホール
- ・日本事務局より12月のレートが105円で連絡が来ております。

結婚月

日高章智会員
開地俊昭会員
長澤好太郎会員
田中靖彦会員



誕生日

森 英典会員
矢野智哉会員
高瀬俊彦会員
蛇原 学会員
鈴木 健会員



本日のプログラム

会員卓話

蛇原 学会員



今回卓話にてお話しさせて頂く事になり、地元である日南市についてご紹介させて頂きます。

日南市は九州の南東部にある宮崎県の南部に位置し、東に日向灘を臨み、西は都城市、南は串間市、北は宮崎市に隣接しています。総面積53,612ヘクタールのうち約78%が山林等で、北西部の南那珂に標高1,000m級の小松山や男鈴山等を有しています。

宮崎市から日南市を経て鹿児島県に至る延長112kmの海岸線は全国有数のリアス式海岸で、日南海岸国定公園として国定公園の指定を受けています。

日南海岸は昭和30年代後半から昭和40年代にかけて鵜戸神宮やサボテン公園などに多くの新婚旅行客の慣行客が来訪しました。昭和37年からはプロ野球チームの広島東洋カープが日南でキャンプを行っているほかプロサッカーチームもキャンプを行い、多くの慣行客で賑わっています。

昭和51年から昭和54年には飫肥城由緒施設の整備が行われ、昭和52年には重要伝統的建造物群保存地区の選定を受け、飫肥城下町が新たな観光地として脚光を浴びました。

みなさんも是非、魅力あふれる日南市へお越しください。

杉本英一会員



今年度、親睦委員会のゴルフ担当委員を務めさせていただいている。来る12月20日のゴルフコンペに関して、多数の申し込みをいただき誠にありがとうございます。ゴルフコンペの幹事をしておりますが、一つは当日の天気、もう一つが参加者が集まらなかつたらどうしようということです。今年度は皆さま早期に申し込みを出していただいておりますので、これがゴルフコンペの幹事として非常に励みになります。次回以降も奮ってご参加の程、宜しくお願ひします。

ここで、次回のゴルフコンペのご案内を致します

と、令和3年1月17日、UMKカントリークラブさんで、7時30分集合、7時53分スタートで6組を予定しています。次週（12月14日）の例会時にご案内を配布しますので、奮ってご参加の程、よろしくお願ひします。

さて、ここから私の卓話になるのですが、せっかくなのでこのままゴルフの話をさせていただこうと思います。ゴルフの歴史について調べてきましたのでしぶしぶ付き合いをいただければと思います。

ゴルフの発祥の国はどこかということですが、結論から言ってしまうと実はハッキリとしたことは分かっていません。ゴルフの発祥については諸説ありますので、ここではいくつかの有力な説を紹介します。

(1) スコットランドを発祥国とする説

よく有名な説の1つとして挙げられるのが、スコットランド（イギリス）を発祥国とする考え方です。14世紀頃のスコットランドで暮らす羊飼い達の間では、先端の曲がった杖のようなもので小石を打って転がす遊びが流行していました。ある日羊飼いがいつものよう足元の小石を杖で転がしていると、偶然野うさぎの巣の中にコロコロと石が入ってしまったのだそうです。その羊飼いは仲間を呼んで、みんなでうさぎの巣の中に小石を転がし入れる遊びを始めたことから、現在のゴルフの原型が生まれたと言われています。

(2) オランダを発祥国とする説

続いて、数ある説の中でも最も有力な説として、オランダを発祥国とするものを紹介します。14世紀頃のオランダでは、「コルペン（オランダ語：kolen）」と呼ばれるゲームが存在しました。このコルベンは現在のゴルフのルールと実によく似ており、長い棒のようなものでボールを打って、より少ない打数でポールにボールをぶつけた人が勝つというでした。これがオランダからスコットランドへと伝播し、現在のゴルフの形になったと言われています。

(3) フランスを発祥国とする説

オランダ発祥説と同じく、有力説の一つとしてよく紹介されるのがフランスを発祥国とするものです。12世紀頃のフランスでは、鉤型の棒でボールを打ってより少ない打数で穴に入れることを競う「クロス」と呼ばれるゲームが流行っていたという事実が文献にも登場しています。このフランス発祥説と採った場合、フランスのクロスという遊びが13世紀頃ベルギーへと伝播して「コルベン」に→14世紀頃オランダへと伝わった

て「コルペン」に→14世紀半ばにスコットランドへと伝わって現在のゴルフの形になった、と説明されます。

(4) セントアンドリュースの13か条

上記のとおり、ゴルフの発祥国がどこであるかということについては諸説あり定かではありませんが、イギリス（スコットランド）がゴルフ文化の発展に大きな影響を与えたことは間違いないありません。1452年にはスコットランド国王 ジェームズ2世によって「ゴルフ禁止令」が発令されています。これは現存するゴルフに関する記述として最古のものです。ゴルフの人気は家臣が弓などの稽古をサボるようになってしまったことから、仕方なくこの禁止令を発令したのだと言われています。さらにその200年後の1754年には、スコットランドで「セント・アンドリューズの13カ条」というものが誕生します。

「セント・アンドリューズの13カ条」とは、ゴルフの基本となるルールを明文化したものです。近代ゴルフにおけるルールの礎と言っても過言ではありません。

例えば

- ・プレー中のボールは交換してはいけない。（第3条）
- ・ホールに入れるときはホールに向かって打つこと。
自分のライン上にない敵のボールを、狙ってはならない。（第7条）
- ・ホールよりもっとも遠いボールの、プレーヤーからプレーすること。（第12条）

これらのルールは現代のゴルフにおいても基本とされています。ゴルファー達の不文律を明文化したこと、後のゴルフ文化の発展に大きく寄与したと言えるでしょう。

(5) 日本におけるゴルフの歴史

日本のゴルフ史がスタートを切るのは1901年です。イギリス人の貿易商人アーサー・ヘスケス・グルーム氏が兵庫県に所有する別荘に4ホールのコースを作ったのが始まりだと言われています。2年後には9ホールに拡張し、日本最古のゴルフ場として知られている「神戸ゴルフ俱楽部」が創設されました。当時、神戸ゴルフ俱楽部には135名の会員がいましたが外国人が中心となっており、日本人会員はわずか7名でした。庶民向けのレジャー施設としてではなく、外国人の貿易や娯楽が主な用途となっていました。

日本で2番目に誕生したゴルフ場は横屋ゴルフアソシエーションです。近隣に住んでいた福井藤太郎氏が

自宅の一部をクラブハウスとして提供しており、キャディーとして修行を積んでいた息子の福井覚治氏は後に日本人初のプロゴルファーになりました。

このように少しづつ日本に根を張りつつあったゴルフ文化も1940年代には戦争の犠牲になってしまいます。太平洋戦争が始まるとゴルフ場を軍用地や畠として使うため、多くのクラブが解散を余儀なくされました。

(6) 第一次ゴルフブーム

戦争によって閉鎖されたゴルフ場の多くは終戦後に復活することなく、せっかく根付いてきたゴルフ文化もこれまでかと思われていましたが、復興とともに少しづつ日本のゴルフ人気は息を吹き返しました。1957年には日本で第5回カナダカップ（=ワールドカップ）が開催され、中村寅吉プロと小野光一プロのペアが団体優勝、中村寅吉プロは個人でも優勝を果たし、日本人選手が大活躍しました。その様子がテレビで放映され、日本中が熱狂の渦に巻き込まれました。これがきっかけとなり、第一次ゴルフブームが始まりました。

(7) 第二次ゴルフブームから現在

第一次ゴルフブームも落ち着いた1966年には、カナダカップ（=ワールドカップ）が再び日本で開催されました。ジャック・ニクラウスプロ、アーノルド・パーマープロなど世界のスター選手が集結し、第二次ゴルフブームの火付け役となりました。

1975年にはゴルフ場の数も1,000を突破し、この頃には利用者のブランド志向も高まってきたため、他のゴルフ場との差別化のため海外の有名設計家を招いてデザインされたコースも多くなってきました。

高度経済成長でゴルフの大衆化が進んだものの、バブル崩壊後にはゴルフ人口は減少の一途をたどり、2017年には日本のゴルフ人口はピーク時のおよそ3分の2になってしまいます。車を持たない若年層の取り込み、お金がかかるというイメージの払拭など多くの課題が残っています。

しかしながら、2019年にルールの簡素が主となる改定が行われるなど、ゴルフ人口の減少に歯止めをかけるために、世界でも日本でも多くの取り組みが行われています。また来年に延期された東京五輪では、ゴルフ競技が開催されることが決まっています。かつてのブームの火付け役となったカナダカップのように国民がゴルフに熱狂し、第3次ゴルフブームが沸き起こることに期待したいと思います。